久留米
〔July 22,2024〕
高専通信
第99号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555　久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
https://www.kurume-nct.ac.jp/

久留米工業高等専門学校
校長　松　村　　晶

校 長 挨 拶

久留米工業高等専門学校は、実り豊かな筑後平野を悠々と流れる筑後川と宝満川が合流するほとりに位置しています。ここ小森野の地には、今から８０年以上前に、我が国の発展を担う技術者の育成を目的にした旧制久留米高等工業学校が建てられました。その後時代と共に変遷をたどり、１９６４年に、中学校卒業後の５年間で実践的・創造的技術者を養成する高等教育機関として制定された高等専門学校の第３期校として、本校は設立されて現在に至っています。１９６６年３月に全国の高専で初めて卒業生を輩出して以来、本校の卒業生は１万余名に及び、国内外において優れた創造的なエンジニア、研究者や社会人として各方面で活躍しています。

本冊子は、本校の教育や研究の方針や内容とともに、学生生活や社会との結びつきの状況など、本校が進めている様々な活動を広く一般の方々にご紹介することを目的としています。

本校は、ここに記述していますように、５年課程の本科に、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物応用化学、材料システム工学の５学科を配しており、そこでは大学受験で中断されることなく、一貫した専門教育とともに人格形成に資する教養教育を行なっています。その後に続く２年の専攻科では、機械・電気システム工学と物質工学の２専攻に分かれてさらに深く専門性を磨き、修了後には大学卒業と同様の学士の称号を得ることができます。また専攻科では、九州大学工学部と連携した教育プログラムコースが開設され、このコースを修了した者は、専攻科の修了証書とともに九州大学工学部卒業証書（学士の学位記）も与えられます。

本校は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を教育理念として掲げて、将来に夢を託すことができる優れた人材の育成に教職員をあげて取り組んでいます。本科生の約６割は卒業後に就職して社会で活躍をし始めます。本校卒業生には社会の各方面から有能な人材として非常に高い期待が寄せられており、有難いことに就職志望者数の約４０倍にも達する求人が各界から毎年寄せられています。残りの約４割は本校専攻科かあるいは九州大学や九州工業大学等の大学３年生に進学して、さらに研鑽を積んでそれぞれの道を歩んでいきます。本校専攻科卒業生への求人倍率も例年１００倍以上と極めて高く、本校の教育理念は十分に実現できているものと確信いたします。

高等専門学校は高等教育機関として、産業界や地域社会との連携・協働を密にして、そこで生じている様々な課題の科学的な解決に取り組み、それらを通して人材教育の高度化を図ることも使命としています。そのために本校は、久留米市内の大学等の５つ高等教育機関からなる「高等教育コンソーシアム久留米」や近隣の技術系企業、大学、研究機関などが参加している「テクノネット久留米」などの連携事業に積極的に関わって、主要な役割を演ずるとともに、久留米商工会議所、日本歯車工業会、日本ゴム協会九州支部や、九州大学・工学系部局、久留米工業大学などとも個別に協定を締結して、社会から寄せられるご期待に積極的にお応えしています。

是非とも久留米工業高等専門学校の活動や動向にご注目とご関心を寄せていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の抱負

百折不撓の心意気

機械工学科１年　西田　仁胡

汗ばむ陽気が続くようになり、４月のまだ冷たかった風が懐かしく感じるようになりました。それと同時に、入学式からもう２か月も経ったという事実に驚きを隠せません。苦しかった受験期を越え、私は今思い描いた理想通りの高専生活を送っています。手に入れた５年間の高専生活を棒に振らぬため、この５年間を今後振り返ったときに最も輝く充実したものにしたいと望んでいます。そのためには自分の中で達成するべき目標をいくつか定め、挑戦していくことが要となるでしょう。

私はよく周りから度胸がある方だと言われますし、何かに挑戦することは自分にとってあまり苦ではありません。挑戦するということは今までの境界線を越え新しいエリアに一歩踏み出すということです。踏み出した先にどんな景色が広がっているのか。あれこれ考えを巡らせ予想をしてから、答えを確かめるために行動を起こす。挑戦とはその繰り返しですが、飽きることは決してありません。

高専に進学することこそ、私にとっては大きな挑戦でした。

友達はできるだろうか。専門知識など皆無だけれど、授業についていけるだろうか。期待と不安がないまぜの中久留米高専の門をくぐりました。そんな２か月前の私とは打って変わって、今では自由な高専生活を謳歌しています。くぐった門の先では、退屈など感じさせる暇もない個性豊かな同級生が、解るまで根気強く丁寧に質問に答えてくれる先生方が待っていました。

大きな挑戦が成功したら、また新たな挑戦をします。有限の高専生活で私のしたい挑戦はいくつできるのだろうか、どんな結果になるのだろうか。うまくいかなかったときはどうしようと不安にもなりますが、踏み出してみなければ現状は何も変わりません。挑戦し、取り巻く環境が見たことのない顔を見せる度に、自分がアップデートされていくことが何よりも面白いのです。

挑戦する度に私は生まれ変わっていくのです。

抱負とは有言実行の有言の部分

電気電子工学科１年　安楽　三志郎

私は新入生の抱負を学科を代表して書くという大役を与えられた。

抱負を書くにあたって、まず私は抱負という単語の意味を調べた。辞書によると心に持っている決意や計画を指す言葉らしい。心に持っている決意や計画、そんな大層なものはないな...。でも、何かしら書かなければならないし考えるか。

まず、容易に思いつくのは勉強に関してだな。「予習復習を毎日する」や「高専の自由度活かして専門的なものを学ぶ」は抱負としてもってこいの内容だが、ありきたりな気がする。ありきたりの何が悪いのかと問われれば答えられないがこれらは却下。

今度は、勉学から離れて「部活や行事に全力で臨む」や「コミュニケーション能力や主体性を会得する」もいいな。だが、抽象的で抱負としてはナンセンスなうえ、『高専でコミュニケーション能力を求めるのか』とツッコミたくなる。抽象的な抱負の何が悪いかと問われれば答えられないがこれらは却下。

この２つを踏まえると具体的で且つ自分らしさが詰まった抱負が良いな、だが自分らしさってなんだ。そもそも抱負って何をもってして良し悪しを決めるんだろう。

私は抱負という単語をより詳しく調べた。すると、単語の説明のあとに「〇〇したい」「〇〇になりたい」という願望ではなく、その願望を達成するために何をするかを考えると書いてあった。これを参考にして、まず願望を沢山考えてみることにした。「試験でいい点数をとる」「高専祭も部活も一番頑張りたい」「学友たちと毎日を楽しみたい」この願望たちをかなえるためには「毎日勉強する」「行事や部活に全力で取り組む」「自分から積極的に動く」が必要だな。あれ、なにか既視感があるような...はっ　これらは最初に思いついたありきたりだったり、抽象的だったりして却下した抱負たちと内容が酷似していた。私はこれに気づき、あることを理解した。私はどんな回り道をしても結局、最初の抱負の内容に行き着くと。最初に思いつくことはそのヒトの根底を表していると。かくして、私の抱負はこの３つに決まった。

１.毎日、学に励む

→授業とは別に何の教科でもなんの学問でも、勉強するという習慣をつける。

２.物事に全力で臨む

→物事と含むものを大きくしたうえで、私は全力を貫き通す。

３.主体性をもつ

→私は主体性という言葉は積極性や自主性などの言葉の意味も包含していると考えている。

ふぅ、抱負が決まったことだし、YouTubeでもみるか...いや、来週の英語の小テストのために勉強しよう。抱負にとって肝心なことは実行することだなぁと考えつつ私は英単語帳を開いた。

新入生の抱負

心機一転

制御情報工学科１年　森　航大

私の新１年生としての抱負は「心機一転」です。

私は中学生の間、勉強を自ら進んでやることがほとんどなく、また私生活でも整理整頓や、時間に余裕を持った行動をしていませんでした。中学生のときは塾に通っていたため、勉強面についてはあまり心配していなかったのですが、高専の学生となってからはもう通っていません。これも自分で予習や復習を行うための良い機会と考え、自分の勉強法をもう一度見直していこうと思います。また、整理整頓ですが、私は片付けが大の苦手です。片付けや掃除をするときにはどうしても集中してやることができず、長い時間がかかっていました。１つのものごとに集中して取り組めるよう頑張っていこうと思います。さらに、時間に余裕をもった行動について、これまでの私はものごとをいつも時間ぎりぎりになってやっと行う癖がありました。そしてそのせいでいつも大変な思いをしていました。だから、今年からは余裕をもって、自分のやりたいことよりもやるべきことを優先していこうと思います。

また、今年からは今までしてこなかった、新しいことにも挑戦します。とくに、スポーツと趣味について、新しいことをやってみたいと考えています。私は小学校と中学校のときにバスケットボールをしていましたが、今まで学校の授業以外でバスケットボール以外のスポーツをほとんどしてきませんでした。高専では今までやったことのない新しいスポーツを経験をしてみようと考えています。趣味では、私は自分から始めた趣味がゲームくらいしかありません。他にもいくつか趣味のようなものはありますが、それらはすべて人から誘われて始めたものです。人から誘われた趣味だけでは、自分の本当に好きなものがわからないのではと思い、今年は自分だけの新しい趣味をはじめようと思います。

心機一転、新１年生としての時間を過ごしていこうと思います。

夢へ向かって

生物応用化学科１年　村上　浩晟

工業高等専門学校、生物応用化学科の新入生として、私は新たな環境での学びと挑戦を楽しみにしています。高校時代から生物の神秘に惹かれ、特にその応用可能性に強い興味を持っていました。この学科では私は自分の関心をさらに深め、将来的に役立つ知識と技術を習得することを目指しています。

まず、基礎知識の習得に全力を尽くしたいと考えています。生物学は多岐にわたる分野を包含しており、細胞生物学、遺伝学、生態学など、その基盤となる知識をしっかりと身につけることが重要です。また、これらの知識を実際に応用するための実験技術や分析手法の習得にも力を入れたいです。授業だけでなく、自主的な学習や研究活動も積極的に行い、自分の興味を深めるとともに、学問的な探究心を養っていきたいです。

次に、実際の研究やプロジェクトを通じて、実践的な経験を積むことを目指しています。生物応用化学科では、多くの実験やフィールドワークの機会があると聞いています。これらの機会を最大限に活用し、現場での問題解決能力やチームワークを養いたいと考えています。特に、バイオテクノロジーや環境保護に関するプロジェクトに参加し、学んだ知識がどのように社会に貢献できるかを実感したいです。

将来的には、生物応用化学の分野で専門性を高め、社会に貢献できる人材になりたいと考えています。環境問題の解決や新薬の開発、農業技術の向上など、幅広い分野での活躍を目指しています。そのためには、現在の学びを大切にし、常に新しい知識を吸収し続ける姿勢が必要です。

この工業高等専門学校での生活は、多くの挑戦と成長の機会に満ちています。自分自身の可能性を信じ、積極的に行動し、多くのことを学んでいくつもりです。これからの数年間、努力を惜しまず、自分の夢に向かって邁進していきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

新入生の抱負

高専生としての大切にしたいこと

材料システム工学科１年　林　宏明

念願の久留米高専に入学し、２か月があっという間に過ぎ去っていきました。この短い２か月という期間の中で、寮での友達、材料科の友達、他学科の友達、部活の先輩、たくさんの先生方など多くの恵まれた新しい出会いがここ久留米高専にはありました。最初は、みな緊張して誰も話さず静かだったクラスも今では、廊下まで騒がしい程の声が聞こえてきます。１年生全体の合宿研修や初めて行われたテストで、クラスの絆は深まり「誰一人として欠けずに進級しよう」という気持ちから、放課後教室に残り勉強を教えあう姿も見かけられとても良い雰囲気が作られています。また、多くの人と関わる内に個人個人の性格やどのような人なのか理解できるようになったと思えます。そんな中で私は高専生活を有意義にするために、２つのことを意識し大切にしていきたいことがあります。

１つ目は、やはり勉強です。高専は普通校の高校とは違い、勉強の範囲が多くレベルの高い授業などが行われます。また、レベルの高い学生が多く集まるため今までのやり方では通用しづらいと思っています。私自身は、中学校時代はあまり勉強を自主的に取り組むことが少なく、受験時もあまり熱心に取り組むことができませんでした。しかし、ここ久留米高専ではともに教えあい高めあえる仲間がいます。そのため、今この恵まれた環境を活かし自分自身を高めていきたいと考えています。また、材料科には専門科目の加工実習があります。高専に入ったからには、しっかりと専門知識を深め将来の自分に役に立てるようにしていきたいです。

２つ目は、コミュニケーションです。先述したようにこの短い２か月で様々な出会いがありました。この出会いを通じて感じたことは、当たり前ですが一人ひとり違う考えを持っていることです。そのため、多くの人と関わり様々な考えに触れることで自分自身の考えも深められると思います。

最後に私は、１年材料科級長としてまた一高専生として充実した高専生活を送っていきたいと考えています。

本当の抱負

機械・電気システム工学専攻１年　中村　光騎

私は専攻科に進学しました。

本科５年の時、私は進学するか、就職するかギリギリまで悩んでいました。推薦枠を埋めてしまう位置に居たため、進路を決めない私は周りの友人たちにとってだいぶ迷惑な存在だったと思います。申し訳ないと思いつつも「将来やりたい事もないのに進学していいのか」、「社会で働く気力もないのに就職していいのか」と、毎日自問自答を繰り返しました。とてもナーバスな時期でした。

そんな時、友人たちは優しく接してくれました。こんな私に頑張ってほしい、一緒に頑張ろうと言ってくれました。こんな仲間が一緒だったら、もっと先に進める。辛くてもきっと頑張れる。そう思って私は進学を決めました。

せっかく進学するんだったら、勉学に集中できる場所にしようと考え、環境の変化が少ない専攻科を進学先に選びました。専攻科は、『少人数定員』『本科との継続性を意識した教育』などを特色として挙げており、それが私には魅力的にうつりました。実際入ってみたら少人数ではなかったけど、個性的な人が多く、楽しげな空間に感じました。

具体的な目標なんて一つも持たないまま進学した私ですが、やりたい事はあります。それは英語の勉強だったり、他学科の知識の獲得、人間的な成長など色々あります。そして、専攻科にはそれらを実現できる時間と環境があります。ここでの２年間は自分にとって、とても重要で貴重な時間になると考えています。面倒くさがらず、興味を持った事に時間を使い、自分の能力の向上に専念したい。目標と呼ぶには曖昧すぎる理想に近いものかもしれないけれど、この気持ちを忘れないよう、学生生活を送りたいと思います。

これから、勉強がうまくいかなかったり、人間関係に悩んだり、さまざまな困難があると思います。それは、逃れられない現実で、見て見ぬふりなんてできないと思います。それでも私は努力を続けます。あの日励ましてくれた友人たちを裏切らないために。何より自分の気持ちを嘘にしないために。

新入生の抱負

本科時代の反省と今後の抱負

物質工学専攻１年　河北　多聞

「新入生の抱負」の執筆の機会をいただきましたこと、ここに感謝申し上げます。新入生の挨拶文としては、いかがなものかと思いましたが、抱負を述べる前に、本科時代の反省を述べさせていただきたいと思います。私は本科時代、生物応用化学科に所属し、素晴らしい環境で、化学や生物学の習得に励んできました。また、同志にも恵まれ、充実した学生生活をおくることができました。ゆえに、後悔の一片も無い、といえば大袈裟ですが、本科での学生生活にある種の満足感を覚えていたのです。しかしながら、先日、その満足感に疑念を抱く機会があったのです。

その機会とは、奨学金の申請でした。申請にあたって、自分の長所、学生時代に力を入れたこと、将来設計等、様々な問いかけに対して文章を作成していくわけですが、１つだけ筆が進まない項目がありました。それは、自分のこれまでの実績に関するものでした。第三者からの評価を獲得しなければなりませんから、その項目が重要なものであることは明らかです。しかし、自分はそれに値するような実績を持ち合わせていなかったのです。では、なぜ自分がそのような実績を持ち合わせなかったのか。それは、単なる自分の実力不足もあるかもしれませんが、何より自分の心構えに要因があるように思えてならないのです。思い返せば、私自身は、これまで物事の「結果」に対するこだわりが欠如していたように思います。物事の過程を楽しむことに満足し、肝心の結果に焦点を当てられていなかったように感じるのです。すなわち、本科時代に抱いた満足感の一部は、いわゆる「頑張り」を評価していただいたことに対するものだったのではないかと。

もちろん物事の過程を重要視することは決して、悪いことではないと思いますし、これからもその姿勢を崩すつもりはありません。しかし、これからは、「結果」にも焦点を当てていきたい。これから、私たちが、飛び込んでいく社会では「結果」が求められることは想像に難くありません。そんな、世界にも、臆さず挑めるような精神性、能力を専攻科での２年間で育んでいきたいと思います。

末筆ではありますが、これからの２年間お世話になる方々へのご挨拶にて、本文を締めさせていただきたいと思います。皆様、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

本科１年生クラス担任紹介

新入生の皆さんへ

機械工学科１年担任　一般科目（理科系）　准教授　黒飛　敬

皆さん、こんにちは。今年は１年機械工学科の担任となりました。昨年より新型コロナの影響が少なくなり、例年通りの行事が行われるようになった久留米高専へ、令和６年度の新入生を迎えることができてとても嬉しく思っています。私の低学年での担当科目は化学１と化学２、化学実験となります。専門分野は合成化学・物性化学等です。常々思っているのですが、身の回りにある様々な物質は過去の科学者たち、そして技術者たちの英知の結晶です。ものづくりの最前線で活躍している技術者たちによって、私たちの生活は支えられているのです。１年生の皆さんには、多くの人々の暮らしに貢献できる素晴らしい技術者になられることを期待しています。

自由と責任

電気電子工学科１年担任　一般科目（文科系）准教授　赤塚　康介

同世代の多くが普通高校へ進学する中で高専という選択肢を選んだ新入生の皆さんは、どのような高専生活を思い描いていたでしょうか。入学前から想像していた通りの自由な生活を満喫しているでしょうか。あまりにも自由すぎて、逆に何をしていいのか分からなくなっていないでしょうか。自由であることは、必ず責任を伴います。勉強しないという選択もあなたの自由ですが、責任として将来の進路を変更しないといけなくなるかもしれません。貴重な青春時代の中の限りある自由な時間を無駄に使うことなく、５年間という高専生活でしかできない多くの事にチャレンジしていってもらいたいと思います。

不変と普遍

制御情報工学科１年担任　一般科目（理科系）　准教授　三木　弘史

数学や理科で学ぶ定理や法則には、（ある条件下で）あるものごとや量が変わらない、そしてそれはいつでもどこでも成り立つ、と述べているものが多い。「不変」で「普遍」というわけだ。それらは数学や理科の理解のためにとても重要である。

さて、世の移り変わりの速さ、大きさはよく聞くが、そのなかでなにが不変で普遍だろうか？それは重要な難問のはずだが、そういう論評を見聞きすることは意外なほど少ない。唯一の正解はなく、各々が自由に考えていいからかもしれない。そうであればここで過ごす期間で、自分にとって不変で普遍なもの、ことを見つけてほしい。それらは個々の人格を形作り、今後生きていくうえでの礎となるものであると思う。

本科１年生クラス担任紹介

What I have accumulated

生物応用化学科１年担任　一般科目（文科系）　准教授　德永　正尚

久留米高専に赴任して今年度６年目に入ります。それまでは佐賀・福岡県の高校中学に長く勤めていました。その間多くの生徒や先生方と出会ってきました。卒業生は社会人になり、地元で活躍している者もいれば、遠い場所で自分の道を進んでいる者もいます。年配の先生方は既に退職され新たな仕事をされたり、同僚だった先生方は現在校長や教頭で活躍されたり、私立学校で教科指導に工夫を重ねている方もいらっしゃいます。そうした姿を見ていると、自分が重ねてきたものとは一体何なのだろうとふと考えることがあります。久留米高専の学生の皆さんもいずれ年を重ねていきます。将来いい歩みができるよう、「今」を大事にしていってください。

これからの勉強について

材料システム工学科１年担任　一般科目（理科系）准教授　沖田　匡聡

数学の授業を担当している沖田です。偏微分方程式論の研究をしています。微分方程式は微分（導関数）の含まれた方程式のことです。微分方程式の解は微分や積分の知識を使って調べることができます。この微分、積分は本科２年生以上で学ぶ分野です。これまで人類は数学を使って様々な問題を解決してきました。みなさんも様々な文章問題に数学を使って解いてきたはずです。問題を解く際、物体の動きや変化を数式で表すと、それは微分になります。変化する様々なことを理解するために微分、積分は利用されます。中学の知識では解けなかった問題も解けるようになります。これから高専でたくさんのことを学んで、将来の様々な問題に備えて下さい。

新任主事紹介

企画主事
德永　美紀

国際交流、まず一歩！

１月から企画主事を務めることになりました、一般科目（文科系）英語担当の德永です。どうぞよろしくお願いいたします。企画主事としての業務は多岐にわたりますが、直接多くの皆さんと関係するのは国際交流業務ではないでしょうか。学生を海外へ送る派遣プログラムの企画・実施や、短期留学生を迎えるために海外の学校とのやり取りを行っています。

私はアメリカの大学院で英語教授法を学びました。その期間中、学内の国際センターで働くことで授業料免除をしてもらえる「Graduate Assistant」というポジションに就くことができ、留学生の空港までの送迎や、留学生と地域の人々の交流イベントの実施などの業務を担当しました。田舎の大学だったのですが、５０ヵ国以上から約４００名の留学生を受け入れていて、沢山の留学生と交流できました。イベントなどを行う際、色々なお国柄の学生達をまとめなくてはならず、大変な事も沢山ありましたが、本当に良い経験だったと思います。今でもＳＮＳ上で繋がっている友達もいますし、連絡は途切れていても、出会ったことは忘れません。海外での自然災害や戦争などが報道されると、「あの子は大丈夫かな。」と心配します。私の目的は「英語教授法を学ぶこと」でしたが、もっと大きな学びがありました。留学というのはそういうものだと思います。

国際交流に興味を持ってくれている学生には「チャンスを逃さない」ことと、「チャンスを最大限に利用する」ことを心掛けて欲しいです。企画主事として、本校が実施する派遣プログラム以外にも、他の団体が実施するプログラムや、高専グローバルキャンプなどの国内イベント、本校の長期・短期留学生との交流イベントなどの案内をしていきますので、まずは情報を見逃さないようにしてください。そして、留学や国際交流の機会に恵まれた際、「あ～、やっぱりもっと英語勉強しておけばよかった。」と思わないよう、普段から英語の勉強も頑張ってください！

新任教職員紹介

原槙　真也

■所　属　制御情報工学科
■職　名　嘱託教授
■採用日　令和６年４月１日
■前　職　有明工業高等専門学校
　　　　　創造工学科 人間・福祉工学系
　　　　　メカニクスコース 教授

抱　負：　１９７６年に本校金属工学科（現在の材料システム工学科）に入学し、卒業後は豊橋技術科学大学へ進学して九州松下電器に就職。その後、平成元年より有明高専に３５年間勤務し、４月に４３年振りにこの久留米高専に戻ってきました。専門はロボット工学、メカトロニクスと言う分野で、コンピュータで機械を制御する研究しています。どうぞ宜しくお願い致します。
　私は高専学生、高専教員で人生の約２/３を高専の環境に居ました。この豊富な経験を活かして学生の皆さんの立場に立った様々なアドバイスが出来ると思いますので、気軽に訪ねて下さいね。また、ものづくりも得意で高専生の時にはディジタル時計、ＴＶゲーム、真空管アンプ、ラジコン飛行機等を沢山製作してきました。ものづくりに興味ある学生さん！是非一緒に何か作りませんか？

趣　味：　ものづくり、電子工作、プログラム制作が大好きです。また、運動が好きで、以前はフルマラソンも走っていましたが、最近はジョギング程度です。山には月１～２回程度登ってます。（登山したい学生さん！一緒に登りませんか？）他にテニスもやってます。また、長くギターは弾いており、YouTubeに沢山アップしてます。最近はジャズギターに挑戦してますが…難しいです。

石塚　政吾

■所　属　一般科目（文科系）
■職　名　嘱託教授
■採用日　令和６年４月１日
■前　職　秋田工業高等専門学校
　　　　　創造システム工学科共通教育系　教授

抱　負：　一般科目（文科系）に国語科目担当教員として着任した石塚政吾です。この３月に秋田工業高等専門学校を定年退職し、嘱託教授として久留米高専で勤務することとなりました。専門は日本近代文学で、文学を通して日本の近代を問い直す研究を行っています。これまでは秋田市出身の伊藤永之介の文学を通じて昭和という時代の様相を解きほぐしてきました。伊藤の親友に芥川賞作家で福岡県みやこ町出身の鶴田知也がいます。晩年は農業問題の専門家として過ごした鶴田の文学を通して、新たに昭和という時代を問い直してみたいと考えています。公立学校教員（中・高等学校）並びに高専教員の経験を活かし、学生の教育に努めて参ります。宜しくお願いいたします。

趣　味：　水泳と農耕を通じて、水と土に親しむ毎日を送っています。５０％は水ででき、やがては土に還る生きものであることの自覚を深めながら、自然とともにあることへの感謝を忘れずに生きたいと願っています。

上野　虎太郎

■所　属　機械工学科
■職　名　助教
■採用日　令和６年４月１日

抱　負：　はじめまして、そして、ただいま帰りました。機械工学科５３期卒の上野です。専攻科修了以来、４年ぶりに久留米高専に籍を置かせていただけることに感謝します。
　授業は材料力学、製図、機械工学実験などを担当します。自分が受けた授業を発展させ、分かりやすい授業をするよう心がけます。研究は鉄鋼のミクロ組織と機械特性の関係を理解することを目的に行っています。
　現在九州大学の博士後期課程に在籍中です。久留米高専出身であること、年齢、そして現役の学生でもあることから、学生の皆さんの気持ちに近いつもりです。何かあってもなくても話しかけていただけると嬉しいです。学生の皆さん、教職員の方々、教員室でお茶とお菓子を準備して待ってます。

趣　味：　金属加工、特に旋盤で鉄鋼材料を削るのが好きです。大学院では、短歌サークルに入っていました。１人でも作歌はできますが、複数人でお互いの短歌について話す歌会はより楽しいです。一緒に歌会をしてくれる方はぜひご連絡ください。
　ほかに、農業、料理、ボウリング、バドミントン、読書などを楽しんでいます。

中川原　光洋

■所　属　電気電子工学科
■職　名　助教
■採用日　令和６年４月１日
■前　職　パソニックシステムネットワークス株式会社
　　　　　パナソニック株式会社
　　　　　パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社

抱　負：　私は、本校４１期ＯＢでして、卒業後１８年ぶりに教職員として戻ってきました。当時、ご指導を頂いた先生方も何名かいらっしゃり、とても感慨深いものがあります。高専卒業後は大学に進学し、その後、企業で商品開発業務に従事していました。
　企業で学んできた技術や経験を活かした学生指導に取り組んで参りたいと思います。また、ＯＢとして、就職や進学など将来に悩みを持つ学生にも寄り添い、アドバイスをしていけたらと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

趣　味：
・登山（九重連山が特に好きです。最近は、子育てが忙しく、登れていません。）
・アクアリウム（教員室にも設置して、癒されたいと考えています。）
・子守り（子供が３人いまして、子育てにも日々奮闘しています。）

新任教職員紹介

上田　拓実

■所　属　制御情報工学科
■職　名　助教
■採用日　令和６年４月１日

抱　負：　専門は制御工学です。皆様と共に学会などに参加しながら研究活動を楽しみたいと思います。数学系の研究もしておりますので、就職・進学などにおいて皆様のお役に立てればと思います。

趣　味：・電子工作
・映画鑑賞
・読書

小林　領太

■所　属　材料システム工学科
■職　名　助教
■採用日　令和６年４月１日
■前　職　鹿児島大学大学院理工学研究科特任助教

抱　負：　令和５年度より着任させていただきました材料システム工学科の小林領太と申します。

専門は磁気物性で、物質の磁性に着目して磁場を用いた材料開発を行っております。若輩者ではありますが、研究室の目標は「切り替えが早く、楽しい研究室」です。学生あっての研究室だと思うので、研究の楽しさや厳しさを教えることができればと考えています。

材料と一言で言っても、様々な分野がありますが、それぞれの学生が希望分野で活躍できるよう、先生方と協力して、教育研究を行っていければと思います。学生教育へ携わるのは初めての経験で、至らない点も多々あるかと思いますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

趣　味：　趣味は酵母菌の培養です。最近はあまりできていませんが、天然酵母のパンなどに使われる酵母菌を家で培養しています。趣味の派生で酵母菌に関する論文も鹿児島大学時に執筆いたしました。金属から菌類まで幅広く興味があります。

大家　慎也

■所　属　一般科目（文科系）
■職　名　助教
■採用日　令和６年４月１日
■前　職　京都府立医科大学・博士研究員

抱　負：　一般科目（文科系）に社会系科目等の教員として着任しました、大家慎也です。大学で哲学・倫理学の研究（特に科学技術と人間の生活の関係の研究）を行ったほか、社会保険労務士法人で企業活動のサポートをしてまいりました。どちらにも共通する考えは、人間は一人で生きているのではなく、むしろ他者や技術や制度に助けられてはじめて自分の能力を発揮することができるのだということです。とりわけ技術の力は人を大いに支援し、大いに生き生きさせてくれると感じます。技術で世の中に貢献する技術者を育てる高専に大きな魅力を感じています。

学生のみなさんと一緒に学ぶことがとても楽しみです。どうぞよろしくお願いします。

趣　味：・読書
・散歩、食べ歩き

長濵　圭一

■所　属　事務部
■職　名　学生課長
■採用日　令和６年４月１日
■前　職　北九州工業高等専門学校学生課長

抱　負：　本年４月に小倉にある北九州工業高等専門学校学生課から異動してまいりました。

これまで福岡県内を北に向かう通勤電車に乗っていましたので、福岡県内を南に向かう通勤電車からの車窓がとても新鮮です。

本校と北九州高専との違いに戸惑いつつも、早く本校に馴染めるよう積極的に課題に取り組んでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

趣　味：音楽鑑賞（娘が吹奏楽部に所属しているので、その影響で最近は吹奏楽曲が多くなりました）

新任教職 [redacted]

立野　真崇

■所　属　事務部
■職　名　総務課用度係長
■採用日　令和６年４月１日
■前　職　国立大学法人九州大学
理学部等事務部財務課用度係主任

抱　負：　４月１日付けを以って九州大学より赴任して参りました立野と申します。総務課用度係に配属となり、主に契約・支出業務を担当させていただきます。
　久留米高専といえば近隣では知らない人はいない俊才が集う場であり、その業務に携われることは期待しかありませんが、初めて接する業務に戸惑うことも多く、まだ本校の発展にお役に立っているとは言い難いところです。
　１日でも早く貢献できるよう尽力しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

趣　味：・史跡巡り
・スポーツ観戦

学生会の取組（１年生合宿研修）

新たな学生会へ

制御情報工学科５年　髙椋　敦

４月の終わりに国立夜須高原青少年自然の家にて１年生合宿研修が執り行われました。私は中央執行委員会渉外局長、先生方や学生課の方々と協働し、この行事を統括するリーダーとして参加しました。その中で私は「前例を踏襲しない全く新しい夜須研修」をスローガンとして掲げました。それは、行われるイベントやタイムスケジュールを大幅に変更することではありません。与えられたプログラムの中で過去の通りでない、私たちなりのアプローチをし、その内容をより価値のあるものにしていくことでした。本行事は上級生に対するピアサポーター研修も兼ねています。ピアサポートとは、似た境遇にいる人を自身の経験や知識を活かして支援することです。つまり我々には久留米高専の先輩として、人生の先輩として新入生のこれからを導く役割が課せられていました。これらのことを根幹に据え、企画運営を行いました。

例年では中央執行委員会は２班に分かれ活動にあたっていましたが、今回はこれを３班に増やし、あらゆる事態に対応できるようにしました。１日目のオリエンテーリングでは険しい山に入ります。迷子になる可能性が十分に考えられます。しかしそれが起こった時、絶対に全体の動きを止めることはあってはなりません。そこで１つの班が迷子捜索隊となることで全体の進行を淀めずに済むという工夫でした。その他にも２日目の朝はとにかく時間がありません。食事指導、シーツ返却、部屋の清掃、荷物運び出しなど、とても２班体制では処理が追い付きません。時間を過ぎることなく完了させられたのでこの方式は本当に採って良かったと考えます。

また、この研修において大切にしていたことがもう一つあります。私はピアサポーターに「各々が考え、ありとあらゆる場面に対し臨機応変に対応すること」を求めました。特に急病や怪我など重大な局面では研修を忘れ、その人の命を救う行動をとれ、という指示を出していました。具体的には先生方への連絡の前にまず救急車を呼べ、ということを徹底して伝えていました。幸いにも大きな事故は起こりませんでしたが、学生会メンバーや学科代表がこれを遵守してくれて、全員が今すべきことを考え、動いていたように思えます。

さて、ここまで良かった点ばかり述べましたが、今回はいいことばかりではありませんでした。大きく２つの反省点が挙げられます。１つ目は施設との連携です。学校から持っていく備品と施設に借りる備品、集いの進行や危険地点など、いろんな立場から議論すべきことがたくさんありました。学内の様々な組織とはそれに関して完璧にすり合わせできていました。しかしそれが施設に十分に伝わっていなく、数多くの場面で混乱、ある学科には多大な迷惑をかけました。これは私がどこまで周知されているかの確認を怠ったことが原因です。

２つ目は私が時間を意識しすぎて新入生の成長の機会を奪ってしまっていたことです。２日目の朝、大きな問題に直面しました。返却すべきシーツの枚数がどうしても合わないのです。施設側が最初から我々に割り当てた枚数が間違っていたことが原因だったのですが、私はそれを特定することができず、迫るタイムリミットに焦りを感じていました。新入生に対しての清掃指導、メンバーに対する部屋の巡回、サポートの指示もおろそかになり、結果として退所点検で多くのやり直しを受けました。自分の使った布団をルールを守ってたたむこと、トイレや廊下を掃除すること、社会人として生きていくうえで最低限出来なければならないことだと思います。自身の焦りによってその指導がうまくできなかったこと、１年生がそれを学べなかったことをとても悔やんでいます。

しかし全体を通してみればこの研修は大成功だったと言えます。新入生の多くが中央執行委員会に入会したことからその満足度がうかがえます。また、ピアサポーターは自身の役割を理解し、考動することができました。前例を一切踏襲しないという私の考えを尊重し、学生会という組織を変革する礎を共に築き上げてくれた仲間のおかげで、このような価値のある学校行事を行うことができました。

各々の職責を超えて一致団結し、不甲斐ない私を支え、ともに歩んでくれた学生会役員、学科代表、その他全ての上級生に感謝を述べます。ありがとう。